

盛岡市遺跡の学び館

平成27年度 館 報



体験学習会「考古学者になってみよう！ 遺跡発掘体験」

盛岡市遺跡の学び館

はじめに

東日本大震災から早6年が経過いたしました。当市では、平成24年度から沿岸被災地への文化財調査に係る職員派遣を実施し、被災地の迅速な復興達成のため、継続して取組んでまいりました。平成27年度も大船渡市に職員派遣を行い、高台移転等に伴う緊急調査に従事するとともに報告書作成業務を受託し、積極的に支援してまいりました。

市内の調査事業におきましては、道明地区土地区画整理事業関連の細谷地遺跡や史跡整備に伴う盛岡城跡の事前調査、個人住宅建築の赤裳遺跡など、本調査・試掘調査併せて26件の調査を実施しました。そのうち、赤裳遺跡からは平安時代後期の竪穴建物跡1棟と土坑8基、多数の土器の出土が確認され、また、竪穴建物跡にはカマドはなく、中央に大きな炉があり、炉の近くには土器整形の轆轤穴が確認されております。土器には土師器の小皿や坏、内面黒色処理された高台付坏、ミニチュア土器などがあり、ここで生産された土器は、安倍氏の拠点等に供給されたものではないかと考えられます。それぞれの調査成果は逐次、報告書として刊行いたしますが、本書では速報としてその概要をまとめたものであります。

学芸事業におきましては、縄文時代晩期に焦点を当てた企画展「陸と海の大洞式土器」を開催し、縄文文化の精華ともいわれる亀ヶ岡文化を代表する大洞式土器をはじめ、市内の遺跡から出土した土器や土偶を通して、精巧な工芸技術や美しい文様を多くの市民の皆様に御覧頂きました。

また、テーマ展では、志波城古代公園のガイダンス施設開館に併せ、「方八丁を掘る」を開催し、太田方八丁遺跡から国史跡志波城として指定を受けるまでの調査史を紹介し、好評を博しました。

関連事業として、史跡めぐりや体験学習など、多様な事業も実施してきましたが、市民の皆様のニーズに十分お応えできたか顧みながら、今後もより一層内容の充実に職員一同励んでまいりたいと存じます。

今後とも関係各位の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

盛岡市遺跡の学び館
館長 杉本 浩

例 言

- 1 本書は、盛岡市遺跡の学び館の平成27年度館報である。
- 2 本書の編集執筆は、当館職員が協議して行った。
- 3 III-4の埋蔵文化財発掘調査の記載内容は、平成27年度に当館が行った発掘調査の概略をまとめたものである。その多くは現在資料整理中であり、正報告書は別途刊行予定である。
- 4 附章は、盛岡市教育委員会が平成13年に発掘調査を実施した薬師社脇遺跡から出土したガラス小玉の科学分析調査の報告である。分析を担当された独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室の田村朋美研究員から玉稿を賜った。
- 5 本書に使用した地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図「盛岡」「日詰」「外山」「小岩井農場」及び「盛岡市広域都市計画図」（平成12年）を使用した。
- 6 発掘調査に伴う記録類や出土遺物等は、当館で保管している。

目 次

はじめに

例言・目次	1
I 施設の概要	
1 (仮称)盛岡市文化財センター建設事業	2
2 事業経過	2
3 建設事業費等	2
4 施設概要	2
II 職員体制	3
III 事業概要	
1 管理運営	4
2 学芸事業	5
3 東日本大震災関連支援事業	12
4 埋蔵文化財発掘調査	13
附章 薬師社脇遺跡出土ガラス小玉の分析調査	20
報告書抄録	

I 施設の概要

1 (仮称)盛岡市文化財センター建設事業

平成12年12月24日未明の「文化財調査室」の火災事故以後、防災に強い施設整備に向けて、平成13年5月より(仮称)盛岡市文化財センター建設構想に係る庁内外との協議(企画調整課・財政課・管財課・契約検査課・公園緑地課・建築営繕課・地域整備公団(当時))を開始し、総合計画との関連および予算措置・建設用地等についての協議をおこなった。各関係機関との協議を経て、同年7月に文化庁から埋蔵文化財センター建設事業(国庫補助)について、平成14年度の事業実施の方向性を打診。建設用地は市先人記念館・子ども科学館・県立美術館の立地する盛岡市中央公園地内を候補地とし、諸機関との調整の上、同年8月に事業開始となった。

2 事業経過

平成13年度	「(仮称)盛岡市文化財センター建築基本設計」策定、展示構想策定業務、地質調査
平成14年度	建築実施設計、展示施設計画、建築工事・土木工事
平成15年度	建築工事・土木工事 展示施設製作業務委託、盛岡市遺跡の学び館設置条例制定
平成16年度	盛岡市遺跡の学び館施行規則制定 施設の名称を「盛岡市遺跡の学び館」とする
平成16年6月1日	盛岡市遺跡の学び館開館
平成28年3月末	開館以来の施設総利用者数142,981人

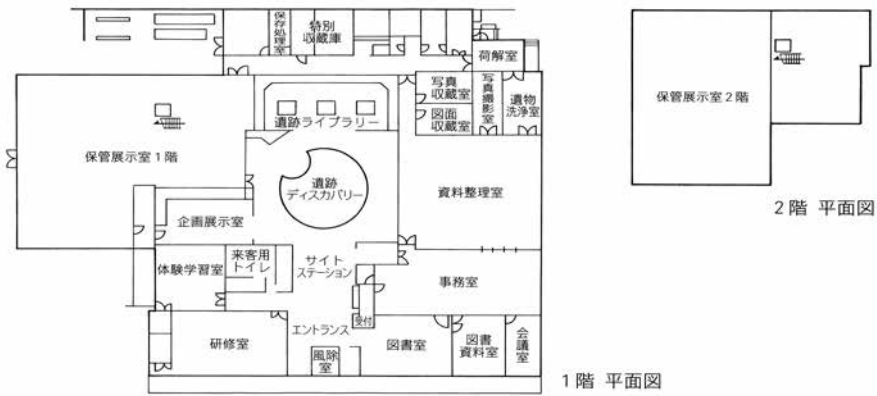
3 建設事業費等

・建設事業費 677,123千円(国庫補助210,000千円・県補助105,000千円)

総事業費	677,755 千円	建築設計	株式会社三衡設計舎
建築設計委託	24,985	展示施設構想策定・製作	株式会社丹青社
建築工事費	455,490	建築主体工事	株式会社阿部正工務店
土木工事費	43,543	敷地造成工事	有限会社東北農林建設
展示計画策定業務委託	8,820	電気設備工事	新興電機株式会社
展示施設製作業務委託	91,308	給排水設備工事	有限会社門坂工業
備品購入費	44,700	機械設備工事	中央水道土木株式会社
その他	6,909	地質調査業務委託	旭ボーリング株式会社
		敷地植栽工事	株式会社やまいわ
		簡易リフト設置工事	三機商事株式会社

4 施設概要

施設の名称と位置	名称	盛岡市遺跡の学び館		設置	平成16年3月31日
	住所	岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1		開館	平成16年6月1日
施設の概要	構造	鉄筋コンクリート、一部鉄骨造平屋(一部重層)			
	敷地面積	5,788.8㎡	建築面積	2,639.9㎡	延床面積
室名と面積	展示部門	常設展示室(450.8㎡)、企画展示室(81.4㎡)、展示器材室			
	教育普及部門	研修室(117.0㎡)、図書資料室(47.7㎡)、図書室(66.3㎡)、体験学習室(70.9㎡)、研修機材室、学習器材室等			
	収蔵部門	保管展示室(897.3㎡・1階517.8㎡・2階379.5㎡)、特別収蔵室(46.5㎡) 写真収蔵室(27.2㎡)、図面収蔵室(27.2㎡)			
	調査整理部門	資料整理室(237.2㎡)、遺物洗浄室(37.1㎡)、写真撮影室(28.8㎡)、保存処理室(14.7㎡)			
	管理部門	会議室(30.8㎡)、事務室(157.7㎡)、荷解室(24.5㎡)、休憩室(12.7㎡)			



館内平面図及び外観・展示室写真

【収蔵資料】(平成27年度末現在)

資料区分	細区分	内 容	点 数	
考古資料	H27年度発掘調査分	・史跡盛岡城跡・細谷地遺跡・赤裳遺跡・手代森遺跡	小コンテナ28箱	
	調査資料 今までの 調査資料	完形品等 (展示資料含む)	・土器・土製品・石器・石製品・陶磁器・鏡・古銭・金属器・木製品・瓦・装身具・小判・経石等	約5,400点
		破片等コンテナ収納資料	・プラスチックコンテナ収納(土器・石器破片, 自然遺物含む) ※コンテナ503×700×397mm, 小コンテナ387×586×142mm	大 300箱 小15,829箱
	寄贈 寄託	個人コレクション ・古澤典夫氏ほか寄贈考古資料 ・一本松経塚・安倍館遺跡出土遺物ほか	8,521点 2点	
標本等	模型・レプリカ	・模型・レプリカ・土壌サンプル等	—	
調査記録資料	図面	・図面(原図・第2原図・遺物実測図等)	約4,400枚	
	写真	・写真(モノクロ・カラーネガ:35mm, 6×7, 4×5) ・カラスライド(35mm, 6×7) ・デジタル画像(700MB:CD・DVD)	約130,000コマ 約44,000コマ 約440枚	

Ⅱ 職員体制

館長(兼) 袖上 寛
館長補佐(兼) 北田 牧子

〔管理・学芸班〕		〔調査班〕	
(主事1 非常勤3)		(副主幹1 主査4 主事補1 非常勤2)	
主事(兼)	佐藤 美沙	副主幹(兼)	菊地 幸裕
文化財調査員(非常勤)	日野杉 潤子	文化財主査(兼)	室野 秀文
学芸調査員(非常勤)	鈴木 由佳	文化財主査(兼)	津嶋 知弘
学芸調査員(非常勤)	樋下 理沙	文化財主査(兼)	神原 雄一郎
		文化財主査(兼)	花井 正香
		文化財主事補(兼)	鈴木 俊輝
		文化財調査員(非常勤)	及川 葉里
		文化財調査員(非常勤)	今松 佑太

Ⅲ 事業概要

1 管理運営

【盛岡市遺跡ネットワーク整備委員会】

盛岡市における中核史跡や重要遺跡の保存活用と遺跡整備の基本的方向を定めることを目的として平成12年に設置。遺跡の学び館の開館を機に、当館の企画運営についての指導もいただいている。

○第1回【期 日】平成27年7月9日(木) 【時 間】13:30～15:00 【会 場】当館 研修室

【出席者】熊谷常正 委員長，菅野文夫・金野万里・紀 修・佐藤由紀男・瀬川君雄・落合昭彦 委員
事務局 鷹嘴 教育部長，中野 教育次長，当館職員

【議 事】審議・平成27年度遺跡の学び館事業について
報告・平成27年度被災市町村への職員派遣等について

○第2回【期 日】平成28年2月12日(金) 【時 間】10:30～11:30 【会 場】当館 研修室

【出席者】熊谷常正 委員長，菅野文夫・金野万里・紀 修・
佐藤由紀男・瀬川君雄 委員
事務局 中野 教育次長，当館職員

【議 事】報告・平成27年度遺跡の学び館事業報告について
・平成27年度の国指定史跡の調査と整備状況について



遺跡ネットワーク整備委員会

【年間事業費】(平成27年度決算額)

事業名	事業費(決算額)	事業内容
管理運営事業	13,655,098円	・臨時職員賃金，施設設備の維持管理経費等
学芸事業	3,788,617円 (うち国補助1,132千円)	・テーマ展，企画展，調査資料展，体験学習会，普及資料の作成，収蔵資料データシステム等
盛岡遺跡群発掘調査事業	3,670,631円 (うち国補助1,780千円，県補助473千円)	・個人住宅建築に係る事前の発掘調査及び資料整理
埋蔵文化財調査事業	6,700,589円	・公共事業に伴う事前調査及び大船渡市受託業務
盛南開発地区埋蔵文化財発掘調査活用事業	12,500,000円 (社会資本整備総合交付金4,800,000円，起債6,300,000円，市費1,400,000円)	・盛南開発事業に係る発掘調査及び活用事業 ・ゆいとぴあミュージアムネットワーク
埋蔵文化財確認調査事業	894,957円	・個人住宅建築及び宅地造成等，民間開発に係る試掘確認調査
計	41,209,892円	

【入館者統計】開館以降の入館者等利用状況(平成16年6月～平成28年3月)

(単位：人)

	有料入館者							減免利用者			展示室利用者数	展示室以外の利用者数	総計
	個人			団体			計	一般	小・中	計			
	一般	小・中	小計	一般	小・中	小計							
H16	2,837	923	3,760	792	422	1,214	4,974	5,316	610	5,926	10,900	1,896	12,796
H17	2,298	1,475	3,773	582	372	954	4,727	2,064	597	2,661	7,388	2,800	10,188
H18	2,024	1,557	3,581	259	798	1,057	4,638	1,575	1,098	2,673	7,311	5,244	12,555
H19	1,932	1,710	3,642	413	851	1,264	4,906	1,660	1,102	2,762	7,668	5,290	12,958
H20	2,157	2,218	4,375	473	804	1,277	5,652	1,859	982	2,841	8,493	6,263	14,756
H21	2,144	2,158	4,302	375	525	900	5,202	1,284	568	1,852	7,054	5,450	12,504
H22	2,012	1,594	3,606	228	268	496	4,102	1,114	411	1,525	5,627	3,624	9,251
H23	1,753	1,644	3,397	709	1,874	2,583	5,980	1,007	690	1,697	7,677	5,156	12,833
H24	2,347	1,471	3,818	427	1,218	1,645	5,463	2,031	610	2,641	8,104	4,959	13,063
H25	1,942	1,640	3,582	630	340	970	4,552	1,641	521	2,162	6,714	3,877	10,591
H26	2,109	1,513	3,622	328	273	601	4,223	1,691	972	2,663	6,886	4,537	11,423
H27	2,305	1,294	3,599	409	224	633	4,232	1,645	545	2,190	6,422	3,641	10,063
計	25,860	19,197	45,057	5,625	7,969	13,594	58,651	22,887	8,701	31,593	90,244	52,737	142,981

2 学芸事業

当館主催の学芸事業として、企画展示室においてテーマ展・企画展、平成27年度調査資料展を開催したほか、市民参加による体験学習会を年間を通じて全6回開催し、またゴールデンウィーク・夏休み・冬休み期間中には個人を対象とした体験学習会などを開催した。また発掘調査現地での説明会の実施、普及資料の発行、さらに出前講座、博物館実習をはじめ、各種実習・研修・行政視察等の受入を行った。

(1) 展示公開・普及活動

【展示会】

タイトル等	テーマ展 「方八丁を掘る！－志波城発掘史－」	会場	当館企画展示室
		来場者数	2,434名
開催期間	平成27年6月6日(土)～平成27年9月27日(日)	展示資料数	119点
展示構成	〔志波城の概説〕地形・景観。時代背景等〔調査史〕太田方八丁・志波城跡〔最新の調査成果〕平成23～25年度調査〔志波城今昔〕対比写真のパネル展示〔太田方八丁と史跡志波城跡〕古絵図、文献、航空写真等で紹介		
概要	かつて「太田方八丁」と呼ばれた志波城跡は現在、国指定史跡となり、古代公園として人々が集う場所となった。古くは藩政時代の絵図や文献にも描かれ、昭和51年から現在に至るまで多くの調査が行われてきた志波城が遺跡として、そして史跡としてどのように捉えられてきたのかを振り返り、現在から未来に向けて保護すべき文化財としての重要性を検証した。		
作成資料	ポスター・チラシ・展示解説シート及び展示資料一覧		
タイトル等	第13回企画展 「陸と海の“大洞式土器” －盛岡の縄文時代晩期とその周辺－」	会場	当館企画展示室
		来場者数	1,347名
開催期間	平成27年10月10日(土)～平成28年1月17日(日)	展示資料数	203点
展示構成	〔大洞式土器とは〕大洞貝塚の発掘調査と研究の歴史〔盛岡の大洞式土器〕市内から出土した縄文時代晩期の遺物〔陸と海の大洞式土器〕内陸部・沿岸部出土の遺物		
概要	1万年にも及ぶ縄文時代の終焉は、縄文文化の結晶とも言えるほど華やかで鮮やかなものだった。その文化は亀ヶ岡文化とも言われ、代表する土器は大洞式土器と呼ばれ、精巧な文様と多様な器形にみられる工芸技術の高さに特徴がある。盛岡市内の遺跡からも縄文時代晩期の遺物が発見されており、本展ではその出土資料の展示を通して、縄文時代晩期に花開いた文化の結晶を紹介した。		
作成資料	展示図録・ポスター・チラシ・展示解説シート及び展示資料一覧		
タイトル等	第33回埋蔵文化財調査資料展 「盛岡を発掘する－平成27年度調査速報－」	会場	当館企画展示室
		来場者数	2,042名
開催期間	平成28年2月6日(土)～平成28年5月15日(日)	展示資料数	159点
展示遺跡	史跡盛岡城跡、赤裳遺跡、細谷地遺跡、手代森遺跡 (特別展示)大船渡市大洞貝塚		
概要	平成27年度に市内で発掘された遺跡の調査概要について、出土遺物・写真・解説パネル等で展示・公開。併せて当市からの派遣職員が担当した大船渡市大洞貝塚の調査資料の一部を展示。		
作成資料	展示パンフレット・ポスター・チラシ・展示資料一覧		



テーマ展 方八丁を掘る！



企画展 陸と海の“大洞式土器”



第33回埋蔵文化財調査資料展

【講演会】（企画展関連事業）

開催日	タイトル・講師	聴講者
平成27年11月8日(日) 13:30～15:30	遺跡の学び館 特別講演会「縄文時代の終焉—大洞貝塚の発掘調査—」 元大船渡市教育委員会 教育次長 金野 良一 氏	45名

【学芸講座】（企画展関連事業）

開催日	タイトル・講師	聴講者
平成27年5月24日(日) 13:30～15:00	学芸講座Ⅰ「震災復興と埋蔵文化財—大船渡市長谷寺遺跡発掘調査—」 当館 花井 正香 文化財主査	25名
平成27年10月25日(日) 13:30～15:00	学芸講座Ⅱ「縄文から弥生へ—手代森遺跡の発掘調査—」 当館 津嶋 知弘 文化財主査	35名
平成27年12月6日(日) 13:30～15:00	学芸講座Ⅲ「亀ヶ岡文化の盛期—玉山区宇登遺跡の発掘調査—」 当館 菊地 幸裕 副主幹	25名

(2) 参加型体験活動

【体験学習会】

開催日	タイトル・講師	参加者
平成27年6月14日(日) 9:30～12:00	「縄文土器をつくろう!」(親子) 対応:当館職員・サポーターズクラブ	24名
平成27年6月28日(日) 7月12日(日) 9:30～12:00	「やきもの教室」(制作と釉薬掛け 2回) 講師:松田昭夫氏 補助:当館職員・サポーターズクラブ	11名
平成27年9月13日(日) 13:30～15:00	「考古学者になってみよう! 遺跡発掘体験」 対応:当館職員・サポーターズクラブ	46名
平成27年11月1日(日) 9:30～12:30	「もりおか史跡・遺跡めぐり—志波城古代公園・徳丹城跡—」 対応:当館職員・サポーターズクラブ	18名
平成27年11月29日(日) 9:30～12:00	「草木で染めよう!」 対応:当館職員・サポーターズクラブ	12名
平成28年2月14日(日) 9:30～12:00	「カゴ作り教室」 対応:当館職員・サポーターズクラブ	15名



縄文土器をつくろう!



もりおか史跡・遺跡めぐり



カゴ作り教室

【古代体験ひろば】

催事のタイトル	開催期間	体験学習のメニュー	参加者
ゴールデンウィーク! 古代体験ひろば	平成27年 5月2日(土) ～ 5月6日(水) 5日間	午前の部 10:00～11:30	勾玉作り71名, 土玉彩色98名, 古代風ストラップ95名, 火おこし416名, まなびのひろば0名 (のべ680名)
夏休み! 古代体験ひろば	平成27年 8月1日(土) ～ 8月9日(日) 9日間	午後の部 13:00～14:30 メニュー: 勾玉作り・土玉彩色・古代風ストラップ(有料), 火おこし・まなびのひろば(無料)	勾玉作り50名, 土玉彩色87名, 古代風ストラップ143名, 拓本作り6名, 火おこし407名, まなびのひろば0名 (のべ693名)
冬休み! 古代体験ひろば	平成28年 1月5日(火) ～ 1月11日(月) 7日間		勾玉作り56名, 土玉彩色46名, 古代風ストラップ77名, 火おこし265名, まなびのひろば29名(※土器スケッチ9名) (のべ473名)



ゴールデンウィーク! 古代体験ひろば



夏休み! 古代体験ひろば(勾玉作り)



冬休み! 古代体験ひろば(土玉彩色)

(3) ボランティア活動や地域連携活動

【盛岡ゆいとぴあミュージアムネットワーク】

「盛岡ゆいとぴあミュージアムネットワーク」(略称もりとぴあねっと)は盛岡市中央公園・本宮・太田地区の博物館・美術館6施設(岩手県立美術館・原敬記念館・盛岡市子ども科学館・盛岡市先人記念館・盛岡市遺跡の学び館・志波城古代公園)で構成されたネットワークで、平成19年度に設立。施設間及び地元本宮地域協働協議会「ゆいネット盛南」等との連携により、共同テーマによるイベント・展示会の開催を行い、利用者が美術・歴史・科学・先人(人物)などに対し、多角的に興味関心を持つ機会を提供し、利用促進を図った。

催事のタイトル	開催期間(日)	内 容	参加・聴講者数
夏休み☆もりとぴあスタンプラリー	平成27年 7月18日(土) ～ 8月30日(日)	施設PRとして、スタンプラリー台紙を小学生児童に配布。7会場中、4カ所の押印で記念品贈呈。	7施設全体のスタンプ押印者数 2,507名 記念品交換者数 320名
もりとぴあねっとまつり2015 勾玉ネックレスづくり	平成27年11月28日(土) 13:00～16:00	もりとぴあねっとと館のPRの一環として勾玉とビーズを組み合わせてネックレス作り。(サポーターズクラブ支援)	参加100名
もりとぴあねっとイベント 勾玉ネックレスづくりと盛南地区発掘調査パネル展	平成28年 2月7日(日) 13:00～16:00	イオン盛岡南SCを会場として、粘土に彩色して作った勾玉とビーズを組み合わせてネックレス作り。	参加90名

【遺跡の学び館サポーターズクラブ】

当館の体験学習など行事運営を支援・協力するボランティア団体の「サポーターズクラブ」が発足して10年目を迎えた。本年度の会員数は11名で、当館行事の春・夏・冬の「古代体験ひろば」（個人の体験学習）をはじめ、史跡めぐり・やきもの教室・野焼きをはじめ各種の体験教室、館外の大規模SCでのもりとびあねっとPR活動なども含め、精力的に活動に参加され、支援していただいた。

また自主活動として、中世の知識や他館の展示方法・工夫などの修得及び会員の親睦を図るために研修旅行（研修先:史跡骨寺村荘園遺跡 期日:平成27年10月11日(月)）を企画し、7名が参加された。



もりとびあねっとまつり 2015



もりとびあねっとイベント
勾玉ネックレスづくり



サポーターズクラブ研修旅行

(4) 研修・実習活動

【研修・実習受入】

開催日	内容	依頼団体(会場)	参加者
平成27年7月3日(金)	職場体験学習	滝沢市立姥屋敷中学校1年 (遺跡の学び館)	1名
平成27年10月21日(水)	地域訪問学習	盛岡市立下小路中学校1年 (遺跡の学び館)	5名
平成27年8月1日(土)	教員10年研修 (ボランティア研修)	盛岡市立上田小学校 (遺跡の学び館)	1名
平成27年9月27日(日)	インターンシップ研修	岩手大学(遺跡の学び館)	1名
平成27年8月18日(火) ～25日(火)	博物館実習(8日間)	岩手大学4名, 盛岡大学2名 (遺跡の学び館)	6名
平成27年10月31日(土)	いわて高等教育コンソーシアム『平泉から知るいわて～いわての復興を考える～』後期	岩手県立大学, 岩手大学, 盛岡大学ほか (遺跡の学び館)	17名



職場体験学習



教員10年研修



博物館実習

(5) 出前講座・講師派遣活動

【出前講座】

開催日時	内 容	講 師	依頼団体(会場)	参 加 者
平成27年8月28日(金)	学びの循環推進事業(まちづくりコース) 「もりおかの遺跡～中津川・上田地区～」	神原 雄一郎 文化財主査	盛岡老人大学杜陵分校	41名
平成27年9月12日(土)	手代森小学校チャレンジふれあいの日 「講話～手代森遺跡～」 「勾玉づくり」	北田 牧子 館長補佐 三浦 陽一 文化財主査 日野杉 潤子 文化財調査員 樋下 理沙 学芸調査員	手代森小学校	46名
平成27年11月28日(土)	太田分館歴史講座第3回 「～盛南地区の古代集落～」	鈴木 俊輝 文化財主事補	盛岡市中央公民館 太田分館	3名
平成27年12月12日(土)	太田分館歴史講座第4回 「～鎌倉・室町時代の岩手郡・斯波郡～」	室野 秀文 文化財主査	盛岡市中央公民館 太田分館	12名

(6) 職員研修活動

【専門研修派遣】

期 間	内 容	派遣職員	主催(会場)
平成27年4月23日(木)	平成27年度文化財行政基礎研修	佐藤 美沙 主 事 鈴木 俊輝 文化財主事補	岩手県教育委員会 一般社団法人 岩手県文化財愛護協会 (岩手県立博物館)
平成27年11月26日(木) ～27日(金)	全国公立埋蔵文化財センター 連絡協議会研修会	菊地 幸裕 副主幹	全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会(岡山県岡山市)
平成27年7月6日(月) ～10日(金)	平成27年度文化財担当専門者 研修「報告書作成I(編集基礎)課程」	鈴木 俊輝 文化財主事補	独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所
平成28年2月3日(水) ～5日(金)	平成27年度文化財等取扱講習会 「初級コース」「実践コース」	日野杉 潤子 文化財調査員 今松 佑太 文化財調査員 樋下 理沙 学芸調査員	公益財団法人 岩手県文化振興事業団 (岩手県立博物館)

【関連会議等出席】

期 間	内 容	派遣職員	主催・会場・視察先
平成27年5月28日(木) ～29日(金)	平成27年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会役員会・総会	北田 牧子 館長補佐	全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会(秋田県秋田市)

期 間	内 容	派遣職員	主催・会場・視察先
平成27年7月23日(木)	平成27年度日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会総会・研修会及び岩手県博物館等連絡協議会総会	袖上 寛 館 長	日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会・岩手県博物館等連絡協議会(一関市立博物館)
平成27年11月18日(水) ～19日(木)	平成27年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議	北田 牧子 館長補佐	全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック(八戸市立埋蔵文化財センター)

(7) 発掘調査成果の公開及び刊行活動

【現地説明会・公開と調査成果報告会】

開催日時	遺跡名(所在地)	見学者・参加者
平成27年6月27日(土) 10:00～11:00	赤裳遺跡第4次発掘調査現地公開(西青山一丁目地内)	30名
平成28年3月6日(日) 13:30～15:30	第33回埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘するー平成27年度調査速報ー」関連事業「平成27年度調査成果報告会」	49名

【埋蔵文化財調査報告書の刊行】

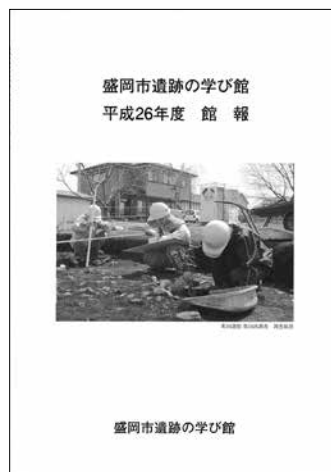
件 名	発 行 日	部 数	販売の有無
「台太郎遺跡ーフローラルアベニュー向中野2丁目宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書ー」	発行 徳清倉庫株式会社 平成27年9月30日	150部	公的機関に 配布予定
「盛岡市遺跡の学び館 平成26年度館報」	平成28年3月25日	350部	

【学芸関連刊行物】

件 名	発 行 日	部 数	販売価格等
【展示図録】 遺跡の学び館第13回企画展「陸と海の“大洞式土器” ー盛岡の縄文時代晩期とその周辺ー」	平成27年10月10日	300部	500円
「遺跡の学び館 特報」	平成28年3月	1000部	無料配布



台太郎遺跡 発掘調査報告書



平成26年度館報



第13回企画展 展示図録

(8) 他市町村への埋蔵文化財担当職員の派遣及び現地指導

派遣先・依頼機関	職務内容	人数	派遣期間
花巻市 花巻市教育委員会	花巻城跡保存計画策定に係る調査等	1名	平成27年7月27日 平成28年3月17日
青森県三戸町 三戸町教育委員会	三戸城跡発掘調査	1名	平成27年11月19日
福島県 (公財) 福島県文化振興事業団	上ノ台館跡発掘調査 (国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査)	1名	平成27年11月25日 ～ 11月27日

(9) 図書整備活動

【寄贈図書及び購入図書】

(冊)

形態	分野	内 容	寄贈・購入冊数		計
			平成26年度末	平成27年度増加分	
発掘調査報告書			16,995	738	17,733
一般図書	考古学	概説書など	240	27	267
	歴史学	日本史・郷土史など	177	2	179
	民俗学	民具・民俗芸能など	13	6	19
	美術工芸	絵画・彫刻・建造物など	32	0	32
	自然科学	動植物など	5	0	5
	文化財保護	一般文化財・保存計画・保存処理・復元など	24	29	53
	博物館学	博物館概論・開館記念誌など	3	0	3
	その他	辞典・事典など	45	1	46
資料集	図録・解説書・パンフ・レジユメなど		1,867	78	1,945
全集	3冊以上		468	0	468
論集	論文集など		53	0	53
通史	市町村史		265	3	268
逐次刊行物	雑誌・年報・館報・紀要・研究報告など		4,302	148	4,450
計			24,489	1,032	25,521

全国各地の公立及び公益法人の埋蔵文化財センター・博物館施設等と遺跡発掘調査報告書や遺跡関係書籍および展示図録・歴史関連書籍や論文，一般刊行物，各種パンフレットなどを主体に図書の交換を行い，保管収集に努めている。これらの蔵書は図書室の開架棚で来館者が自由に閲覧できるものと，図書資料室に収蔵のうえ，受付に申し出て閲覧できる図書に区分している。

3 東日本大震災関連支援事業

【現地派遣及び現地指導による支援活動】

	所 属	派 遣 先	職務内容	人数	派遣期間（依頼）
職員派遣	歴史文化課	大船渡市 大船渡市教育委員会	被災者向け宅地造成等に係る発掘調査	1名	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日
業務受託	遺跡の学び館	(遺跡の学び館) 大船渡市教育委員会 ※平成26年度発掘調査分の報告書作成業務を 当市で受託し、当館で実施した。	長谷寺遺跡発掘調査報告書 作成業務の受託	1名	平成27年4月1日～ 平成28年3月25日

○東日本大震災に係る被災市町村への職員派遣については、平成23年3月11日以降、沿岸部の要望により継続的に実施してきたところであるが、平成27年度も岩手県市長会を通じ、派遣依頼の要請があり、当市は「東日本大震災に係る盛岡市復興推進の取組方針」に基づき、沿岸8市町村に18名の職員を派遣し、文化財担当としては市教育委員会歴史文化課から大船渡市教育委員会へ1名(派遣期間は平成27年4月1日～平成28年3月31日)を派遣した。

○歴史文化課からの職員は、大船渡市内での被災者向け宅地造成等に係る発掘調査を担当し、赤崎地区の「大洞貝塚」の発掘調査や室内作業(図面整理・遺物整理)等の職務に従事した。また、同市において平成26年度に派遣職員が発掘調査を行った「長谷寺遺跡」に係る資料整理等業務委託を受託し、出土資料整理及び報告書図版作成や報告文章の執筆等を行った。

さらに、当館で開催した第33回埋蔵文化財調査資料展で、特別展示として大船渡市教育委員会の協力により、派遣の職員が担当した遺跡の出土遺物・写真パネル等の公開も併せて実施した。



大洞貝塚 調査区全景



大洞貝塚 石囲炉



大洞貝塚 遺物包含層土器出土状況

(写真提供：大船渡市教育委員会)



第33回埋蔵文化財調査資料展 特別展示 大船渡市・大洞貝塚出土遺物

4 埋蔵文化財発掘調査

平成27年度に当館は、本発掘調査4件、試掘調査22件、合計26件の調査を行った。前年度比136.8%である。原因別の内訳は、史跡保存整備事業に伴う事前調査が1件、大規模区画整理事業に係る本調査1件・試掘調査1件、市道改良等の公共事業に係る本調査1件・試掘調査3件、民間開発関連では、個人専用住宅建築に係る本調査1件・試掘調査4件、共同住宅建築に係る試掘調査が7件、病院等の建築に係る試掘調査が1件、宅地造成に係る試掘調査が6件である。調査総面積は10,952㎡で、前年度比97.3%となっている。

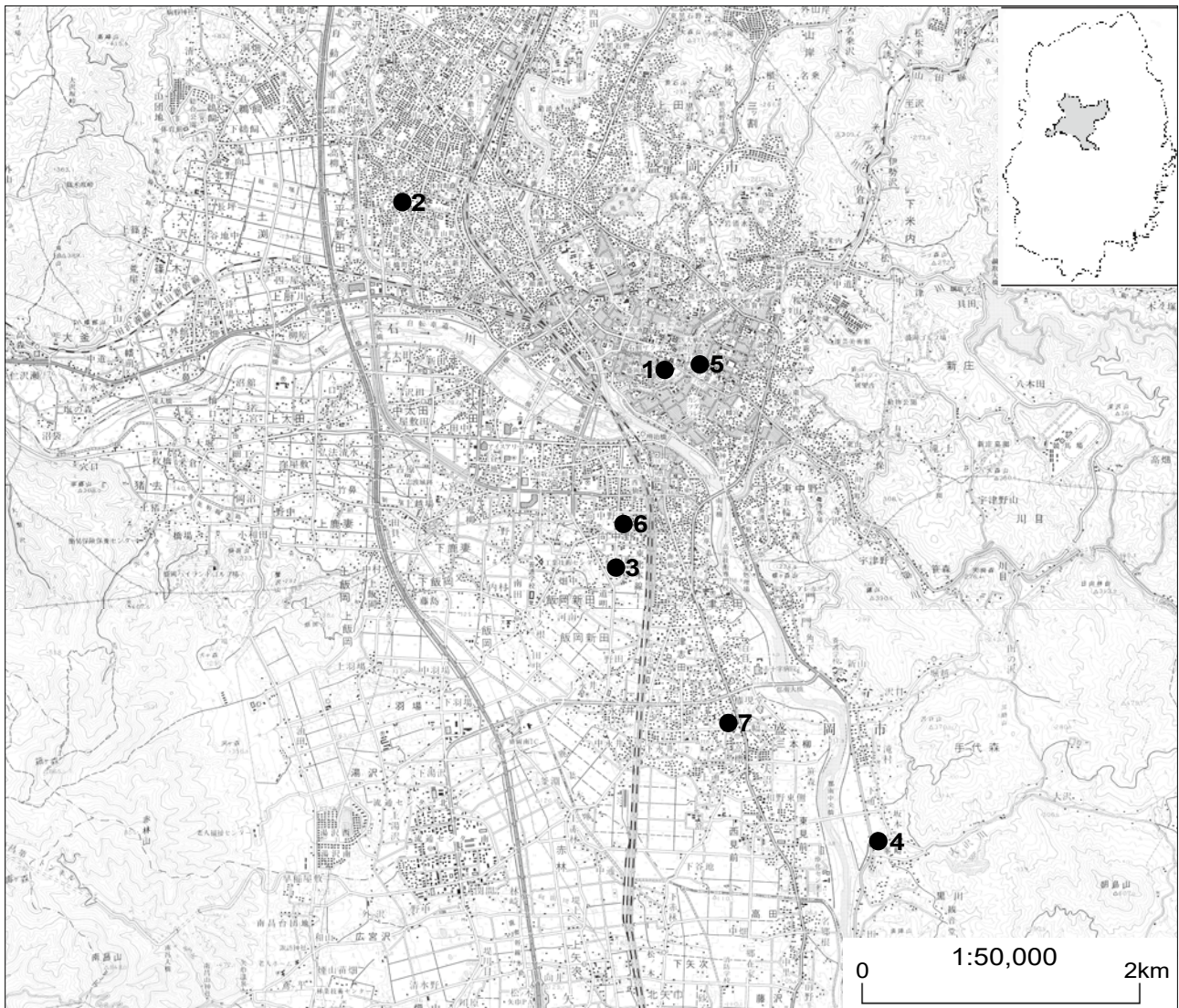
調査地の地域的分布は、雫石川南岸の太田・向中野地区が7地点、旧市街地区が2地点、厨川地区が5地点、築川地区が4地点、飯岡地区が4地点、乙部地区が2地点、玉山地区が2地点となっている。

本報告では、遺構及び遺物が検出された発掘調査を主体に記述し、その他については一覧表での記載のみに留めた。

【平成27年度埋蔵文化財発掘調査(本調査・試掘調査)一覧】

区分	No	遺跡名	次数	所在地	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	主な検出遺構・出土遺物
本調査	1	盛岡城跡	35	内丸57-1地内	史跡保存整備の事前調査	9月8日～ 11月5日	41	門跡2棟、堀跡1条、坂道1ヶ所 近世の瓦・陶磁器・古銭
	2	赤裳遺跡	4	西青山一丁目21, 16-2	個人住宅建築	5月11日～ 6月30日	510	平安時代の堅穴建物跡1棟、土器焼成遺構2基、土坑3基、粘土採掘坑4基 平安時代後期の土器 コンテナ約20箱、鉄製品6点
	3	細谷地遺跡	35	向中野字細谷地7-2 外	土地区画整理事業	5月12日～ 12月25日	7,842	縄文時代の陥し穴状土坑3基、平安時代の堅穴建物跡6棟、堅穴状遺構1基、時期不詳の土坑15基、溝跡5条 奈良・平安時代の土器器・須恵器・あかやき土器 コンテナ約5箱
	4	手代森遺跡	5	手代森22地割62-6外	水道管敷設工事	12月14日～ 12月18日	108	縄文時代の遺物包含層 縄文時代の土器・石器 コンテナ約2箱
試掘調査	5	宿田南遺跡	12	北夕顔瀬町8-36	共同住宅建築	4月16日	35	遺構・遺物 なし
	6	台太郎遺跡	82	向中野二丁目5-7	宅地造成	4月17日	53	遺構 なし 遺物 平安時代のあかやき土器片
	7	宿田南遺跡	13	北夕顔瀬町1-1・2, 30-1, 35-1	宅地造成	5月14日	257	遺構・遺物 なし
	8	小山遺跡	37	東山一丁目372-1, 373-1	共同住宅建築	5月19日	62	縄文時代の土坑3基 縄文前期・中期の土器片・石器
	9	小山遺跡	38	東山一丁目99-1, 377, 379	共同住宅建築	5月19日	27	遺構・遺物 なし
	10	小山遺跡	39	東中野町101-1, 102-2	共同住宅建築	5月20日	29	縄文時代の堅穴建物跡1棟、土坑1基 縄文中期の土器片

区分	No	遺跡名	次数	所在地	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	主な検出遺構・出土遺物
試掘調査	11	二又遺跡	13	下飯岡1地割56-12	個人住宅建築	5月25日	28	遺構・遺物 なし
	12	二又遺跡	14	下飯岡1地割56-13	個人住宅建築	5月25日	62	遺構・遺物 なし
	13	盛岡城遠曲輪跡		神明町18の一部	共同住宅建築	6月16日	36	近世の排水溝跡1条 近世～現代の陶磁器
	14	台太郎遺跡	83	向中野二丁目3-4	共同住宅建築	7月7日	102	遺構・遺物 なし
	15	大桜前遺跡	1	東見前6地割91-1・3, 92～94	宅地造成	7月13日	230	遺構・遺物 なし
	16	台太郎遺跡	84	向中野一丁目12-9	宅地造成	7月15日	72	遺構 なし 遺物 平安時代の土師器・須恵器片
	17	台太郎遺跡	85	向中野一丁目12-4	宅地造成	7月15日	71	平安時代の土坑1基 平安時代の土師器・須恵器片
	18	町田遺跡	20	乙部30地割40-1・2	個人住宅建築	8月18日	31	遺構・遺物 なし
	19	大谷地遺跡	1	玉山字大二子	市道改良	9月9日～ 11日	156	縄文時代の竪穴建物跡1棟, 土坑8基 縄文時代の土器・石器
	20	田貝遺跡	15	上鹿妻字田貝11-1・8・9・16・17	病院建設	9月17日～ 18日	169	古代以降の溝跡1条, 時期不詳の土坑2基 縄文時代の剥片
	21	岩洞湖E遺跡	1	藪川字亀橋	市道改良	10月28日～ 29日	35	縄文時代の土坑3基, 中・近世の道路跡1ヶ所
	22	小屋塚遺跡	41	大新町101-1	宅地造成	11月18日～ 19日	324	遺構・遺物 なし
	23	小山遺跡	40	東中野町30-1	共同住宅建築	11月25日～ 26日	140	縄文時代の竪穴建物跡29棟, 土坑7基, 時期不詳の溝跡1条 縄文時代の土器・石器, 古代の土師器・須恵器, 近世の陶磁器
	24	台太郎遺跡	86	向中野二丁目137-28・29	個人住宅建築	12月15日	84	古代の竪穴建物跡5棟, 土坑2基, 溝跡1条, 堀跡1条 古代の土師器片
	25	下永林遺跡	2	三本柳10地割24-3外	土地区画整理	1月26日	50	時期不詳の溝跡1条
	26	幅Ⅲ遺跡	3	土淵字幅2-3	学校施設建設	3月22日～ 25日	399	遺構・遺物 なし
総面積							10,952	



1	盛岡城跡 (第35次)	2	赤裳遺跡 (第4次)	3	細谷地遺跡 (第35次)
4	手代森遺跡 (第5次)	5	盛岡城跡遠曲輪跡	6	台太郎遺跡 (第85次)
7	下永林遺跡 (第2次)				

○史跡整備に伴う事前調査

(1) 国指定史跡^{もりおかじょうあと}盛岡城跡 第35次調査

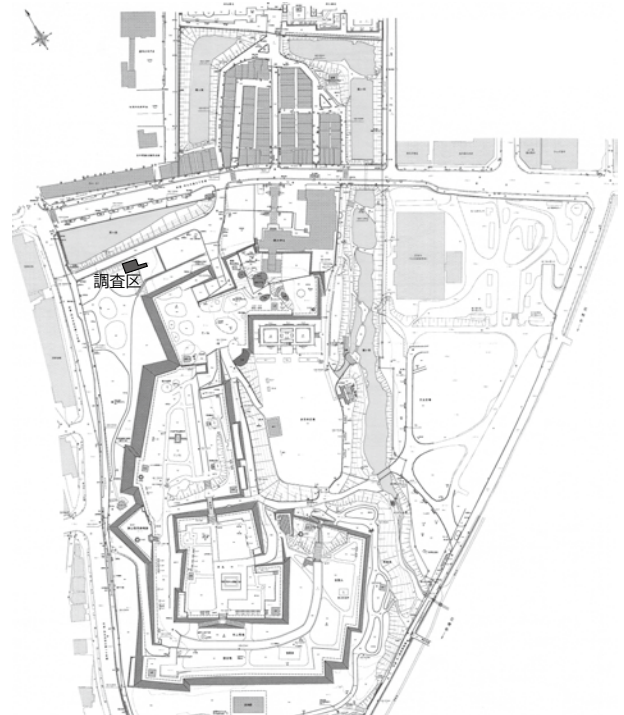
- | | | | |
|--------|---|--------|-----------------|
| 1 調査地 | 盛岡市内丸57-1 地内 | 2 調査原因 | 保存整備事業に伴う事前調査 |
| 3 調査方法 | トレンチによる内容確認調査 | 4 調査期間 | 平成27年9月8日～11月5日 |
| 5 調査面積 | 40.8㎡ | 6 調査員 | 室野 秀文 |
| 7 検出遺構 | 新御蔵地区：門跡2棟、堀跡1条、溝跡1条、坂道1ヶ所 | | |
| 8 出土遺物 | 藩政期の瓦、陶磁器、寛永通宝、近代以降の瓦、陶磁器 | | |
| 9 調査概要 | 史跡盛岡城跡は、市街地中心部の内丸に所在する盛岡藩南部氏の居城跡である。本丸、二ノ丸、三ノ丸などで構成される連郭式縄張の内曲輪（御城内）を要とし、その外側に外曲輪、遠曲輪を配置した梯郭式の城郭である。主要曲輪は総石垣造りとなっている。築城から400年以上経過し、石垣は城内各所で孕みや陥没が認められ、一部では崩落の危険性もあげられる。 | | |

当市では、平成24年に策定した「史跡盛岡城跡整備基本計画」に基づき、石垣の解体修復をはじめとする保存整備計画を計画し、これに係る事前調査を平成25年度から実施している。第35次調査は、三ノ丸北西の新御蔵地区北部を対象とした。

検出された遺構のうち、坂道は、『明和三年書上盛岡城絵図』（1766年）に描かれたものと推測され、新御蔵前から三ノ丸下鳩門へと登る道である。また、調査区西側で検出された堀跡は、藩政期の絵図には表現されていないもので、盛岡城築城段階か、先行する不来方城期の遺構と想定されるものである。



第35次調査区 全景



第35次調査区 位置図

○公共事業関連

(1) 細谷地遺跡 第35次調査

- | | | | |
|--------|--|--------|-------------------|
| 1 調査地 | 盛岡市向中野字細谷地7-2 外 | 2 調査原因 | 道明地区土地区画整理事業 |
| 3 調査方法 | 調査対象区域全面の本調査 | 4 調査期間 | 平成27年5月12日～12月25日 |
| 5 調査面積 | 7,842㎡ | 6 調査員 | 鈴木 俊輝・及川 栞里 |
| 7 検出遺構 | 縄文時代の陥し穴状土坑3基、平安時代の竪穴建物跡6棟、竪穴状遺構1基、時期不詳の土坑15基、溝跡5条 | | |
| 8 出土遺物 | 縄文土器、弥生土器、平安時代の土師器・須恵器・あかやき土器 コンテナ約5箱 | | |
| 9 調査概要 | 本遺跡は、北上川西岸と雫石川南岸に広がる低位沖積段丘の南端縁辺部に立地している。これまでの調査で、奈良・平安時代の竪穴建物跡が230棟以上確認された大規模集落跡である。 | | |

今次調査は、昨年度調査区に隣接する遺跡南東部を対象とし、平安時代の竪穴建物跡等の遺構と、土師器・須恵器等の遺物を検出した。また、縄文時代の陥し穴状土坑も検出されている。



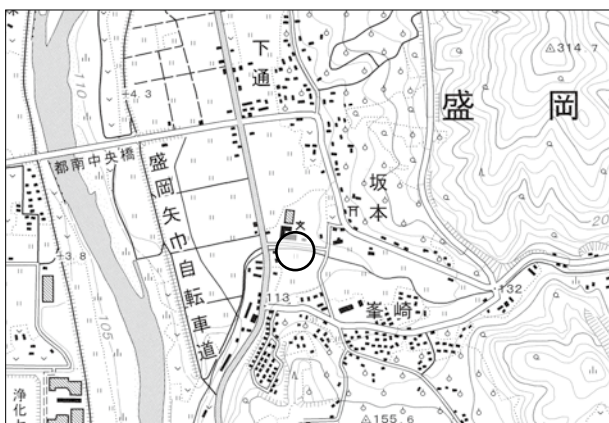
第35次調査区 位置図



第35次調査区北部 全景

(2) ^{てしろもり}手代森遺跡 第5次調査

- | | | | |
|--------|---|--------|--------------------|
| 1 調査地 | 盛岡市手代森22地割地内 | 2 調査原因 | 水道管敷設工事 |
| 3 調査方法 | 調査対象区域全面の本調査 | 4 調査期間 | 平成27年12月14日～18日 |
| 5 調査面積 | 107.7㎡ | 6 調査員 | 神原 雄一郎・鈴木 俊輝・今松 佑太 |
| 7 検出遺構 | 縄文時代の遺物包含層 | | |
| 8 出土遺物 | 縄文土器・石器 コンテナ約2箱 | | |
| 9 調査概要 | 本遺跡は、北上川東岸の氾濫原と北上山地に連なる丘陵の間に形成された沖積段丘上に立地している。今次調査は、昭和59年に（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（当時）が実施した調査地点の北東に隣接した区域を対象とした。細長範囲ではあったが、縄文時代前期と晩期の遺物包含層が確認され、前期初頭の土器（深鉢）や、晩期の土器（注口土器、浅鉢等）・石器（石鏃、石匙等）が出土した。 | | |



第5次調査区 位置図



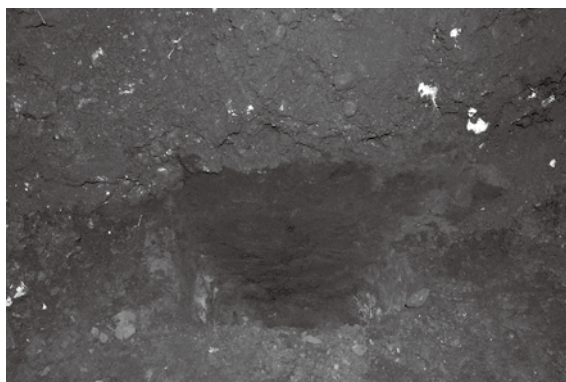
第5次調査区 全景

(3) ^{しもながばやし}下永林遺跡 第2次調査

- | | | | |
|--------|--|--------|------------------|
| 1 調査地 | 盛岡市三本柳10地割24-3 外 | 2 調査原因 | 都南中央第三地区土地区画整理事業 |
| 3 調査方法 | トレンチによる遺構確認及び精査 | 4 調査期間 | 平成28年1月26日 |
| 5 調査面積 | 50㎡ | 6 調査員 | 鈴木 俊輝 |
| 7 検出遺構 | 時期不詳の溝跡1条 | | |
| 8 出土遺物 | なし | | |
| 9 調査概要 | 本遺跡は、雫石川南岸と北上川西岸に広がる低位沖積段丘上に立地する。今次調査では、トレンチによる遺構確認調査を行った。その結果、開口部幅約0.6m、長さ約3.5m、最大深約0.6mの溝跡が検出されたため、遺構精査を実施し、調査を終了した。 | | |



第2次調査区 位置図



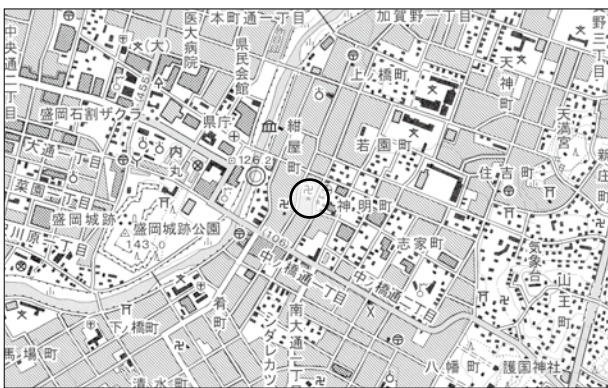
第2次調査 溝跡

○民間開発関連

(1) ^{もりおかじょうとおくるわあと}盛岡城遠曲輪跡

- | | | | |
|--------|--|--------|--------------|
| 1 調査地 | 盛岡市神明町18の一部 | 2 調査原因 | 共同住宅建築 |
| 3 調査方法 | トレンチによる遺構確認及び精査 | 4 調査期間 | 平成27年6月16日 |
| 5 調査面積 | 36㎡ | 6 調査員 | 神原 雄一郎・花井 正香 |
| 7 検出遺構 | 近世の排水溝跡1条 | | |
| 8 出土遺物 | 近世～現代の陶磁器 | | |
| 9 調査概要 | 盛岡城遠曲輪は、盛岡城を外周する外堀で囲まれた区域で、現在の本町通、中央通一丁目、神明町、肴町、南大通二丁目辺りに及ぶ。今次調査区は、その東辺中央部に位置し、本山修験宗の感應山神通寺三明院の跡地にあたる昨年度調査地点の西側隣接地である。 | | |

調査の結果、排水溝跡が検出された。一部が確認されたのみであるが、規模は、検出部分で開口部最大幅約2.0m、長さ約9.0mを測る。昨年度調査した排水溝跡の延長と想起されるものである。



調査区 位置図



排水溝跡 検出状況

(2) ^{だいたろう}台太郎遺跡 第85次調査

- | | | | |
|--------|--|--------|-------------|
| 1 調査地 | 盛岡市向中野一丁目12-4 | 2 調査原因 | 宅地造成 |
| 3 調査方法 | トレンチによる遺構確認及び精査 | 4 調査期間 | 平成27年7月15日 |
| 5 調査面積 | 71㎡ | 6 調査員 | 花井 正香・今松 佑太 |
| 7 検出遺構 | 平安時代の土坑1基 | | |
| 8 出土遺物 | 平安時代の土師器・須恵器片 | | |
| 9 調査概要 | 本遺跡は、雫石川南岸に広がる沖積段丘上に立地している。盛岡市内では最大規模の古代集落跡である。今次調査では、平安時代の土坑が確認された。長軸約1.1m、短軸約0.5m、深さ約0.2mを測り、不整長楕円の平面形を呈する。検出遺構は、遺構精査と実測図化を行い、調査を終了した。 | | |



第85次調査区 位置図



第85次調査 トレンチ全景

○個人住宅建築関連

(1) 赤袈遺跡 第4次調査

- | | | | |
|--------|--|--------|------------------|
| 1 調査地 | 盛岡市西青山一丁目21, 16-2 | 2 調査原因 | 個人住宅建築 |
| 3 調査方法 | 調査対象区域全面の本調査 | 4 調査期間 | 平成27年5月11日～6月30日 |
| 5 調査面積 | 510m ² | 6 調査員 | 室野 秀文・今松 佑太 |
| 7 検出遺構 | 平安時代の竪穴建物跡1棟, 土器焼成遺構2基, 土坑3基, 粘土採掘坑4基, 柱穴2口 | | |
| 8 出土遺物 | 縄文時代の磨製石斧1点, 平安時代後期の土器 コンテナ約20箱, 鉄製品6点 | | |
| 9 調査概要 | 本遺跡は, 盛岡市北西部から滝沢市にかけて広がる滝沢台地の南西側の緩斜面上に立地している。今次調査は, 昨年度実施した第3次調査区の西隣を対象とし, 調査の結果, 平安時代後期の竪穴建物跡, 土器焼成遺構, 粘土採掘坑等の遺構と, 平安時代後期に帰属する小皿, 高台付坏, 小型器台等の遺物が確認された。 | | |

このうち, 調査区西端部で検出された竪穴建物跡は, 中央部に地床炉を有し, 隣接して轆轤穴が確認されたもので, 土器成形作業場としての機能が想起されるものである。また, 覆土下層からは焼土層と多量の廃棄土器が検出されており, 竪穴廃絶後に, 堆積土で形成された窪みを利用して土器の焼成が行われていたことがわかる。

昨年度の調査結果と併せ, 当地及び周辺地域における該期の様相が窺える知見となっている。



第4次調査区 位置図



第4次調査 竪穴建物跡

附章 薬師社脇遺跡出土ガラス小玉の分析調査

田村 朋美（国立文化財機構 奈良文化財研究所）

1 はじめに

薬師社脇遺跡からは古墳時代中期後半（南小泉式後半）に属するとされる2基の土壌墓から38点のガラス小玉が出土している。日本列島では弥生時代以降多くのガラス製品が流通するが、東北地方北部における古墳時代中期のガラス製遺物の出土事例は極めて少ない。特に、薬師社脇遺跡では北方の続縄文文化に特徴的な土壌墓から東北南部の古墳文化に伴う遺物が出土している遺跡として注目されている。日本列島出土のガラス製遺物については、製作技法や化学組成による分類が進み、種類ごとの時期的な変遷や地域性についても明らかとなってきた（大賀2002, 肥塚ほか2010, Oga and Tamura2013など）。本調査では、薬師社脇遺跡から出土したガラス小玉について、製作技法を推定し、化学組成から基礎ガラスの種類および着色剤の特徴を把握することを目的として各種の自然科学的調査をおこなった。以下、その結果について報告するとともに、遺構ごとのガラス製遺物の特徴について筆者らがこれまで分析を実施してきた畿内を中心とした古墳文化のガラス小玉と比較考察する。

2 資料の概要

調査対象とした資料は、薬師社脇遺跡RD402土壌墓出土のガラス小玉7点（RD402-1～RD402-7）およびRD403土壌墓出土のガラス小玉31点（RD403-1～RD403-31）である。色調は、いずれも濃い青色～紺色を呈する小玉から構成される。ただし、子細に観察すると、RD402土壌墓出土品は、やや緑味の強い濃青色～青色透明を呈するもの（RD402-1, 4, 6）と、紺色透明を呈するもの（RD402-2, 3, 5, 7）が存在する。ただし、RD402-1についてはわずかに紺色味も帯びている。一方、RD403土壌墓出土品は、RD403-10が濃青色透明を呈する以外は、すべて紺色透明である。遺存状態も遺構によってやや異なる。RD402土壌墓出土品は総じて遺存状態が悪く、RD402-1, 2, 4, 7は一部を欠損している。すべての個体で表面に微細な亀裂が多く認められる。一方、RD403土壌墓出土品は比較的状态が良好で表面にガラス光沢が残存するものと、風化による蝕像が顕著にみられるものが存在する。風化による蝕像は小口面では孔を取り巻くようにめぐるが、側面では孔と平行方向に筋状に認められる。

3 調査の方法

顕微鏡観察 製作技法を推定するため、ガラス小玉に含まれる気泡の並びや形状、ガラス小玉表面および孔壁面の状態や孔の形状などに着目して、落射光および透過光下での実体顕微鏡観察をおこなった。使用した顕微鏡はライカ製MZ16で、必要に応じて付属のデジタルカメラ（Nikon DXM1200F）で撮影した。

コンピューテッドラジオグラフィ法（CR法） 顕微鏡では把握しきれなかった孔の形状や気泡の配列などのガラス内部の観察を目的として、X線透過撮影を実施した。本調査では、従来のフィルムのかわりにイメージングプレート（Imaging Plate: IP）を検出系に用いるコンピューテッドラジオグラフィ（Computed Radiography method: CR法）を利用した。撮影に用いた装置は、マイクロフォーカスX線拡大撮像システム（富士フイルム社製 μFX-1000）とイメージングアナライザー（富士フイルム社製 BAS-5000）、IPはBAS-2025を使用した。撮影条件は、管電圧50kV、管電流60μA、露光時間100秒とした。

蛍光X線分析法 ガラスの主要な構成成分とその含有量を知るために蛍光X線分析を実施した。測定にあ

たつては、顕微鏡下で新鮮な破断面など風化の影響が少ない場所を選択し、測定範囲の表層を超音波およびエチルアルコールで洗浄したうえで測定した。測定結果は、測定資料と近似する濃度既知のガラス標準試料を用いて補正した理論補正法（Fundamental Parameter method：FP法）により、検出した元素の酸化物の合計が100%になるように規格化した。測定に用いた装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置（エダックス社製EAGLEⅢ）である。励起用X線源はモリブデン（Mo）管球、管電圧は20kV、管電流は100 μ A、X線照射径は112 μ m、計数時間は300秒とし、真空中で測定した。

4 結果と考察

4-1 製作技法

RD402土 墳墓（図1） 7点のうち4点（RD402-2, 3, 4, 5）は、孔内が比較的平滑で気泡が孔と平行方向に並ぶなどの特徴から、軟化したガラスを引き伸ばして製作したガラス管を分割して小玉を得る「引き伸ばし法」で製作されたと推定できる。残り3点のうちRD402-7は、開孔部に2箇所の変状の溝があることなどから、筆者らが「包み巻き法」（肥塚ほか2010）と呼んでいる製作技法に相当する。軟化したガラスに芯棒を刺し込み、芯棒を包むように巻いて丸玉に整形したと推定している。RD402-1は丸みが強く、レンズ状に伸びた気泡が認められるが、気泡の伸長方向は一定でない。包み巻き法の可能性が高いが、決め手を欠く。RD402-6は、一見引き伸ばし法に類似するが、両端面で孔径が異なっている（図2）。このような特徴は包み巻き法に出現することが多いが、やはり決め手を欠くため、具体的な製作技法の特定には至らなかった。なお、RD402土 墳墓出土品は総じて端面が磨かれており、白状になるまで顕著に磨かれているものが多い。

RD403土 墳墓（図3） すべて引き伸ばし法によると推定される。特に、孔内が極めて平滑で孔と平行方向に伸びる気泡筋が両端面を貫く個体が多く認められるのが特徴である（図3中）。孔と平行方向に認められる筋状の蝕像は、このような気泡筋が起点となって風化が進んだものと考えられる（図3左）。端面が研磨されていないものを多く含み、研磨されているものについてもRD402土 墳墓出土品と比較すると、研磨の程度は低い。



RD402-1 RD402-3 RD402-6 RD402-7
図1 RD402土 墳墓出土ガラス小玉の顕微鏡写真（一部）（倍率不同）

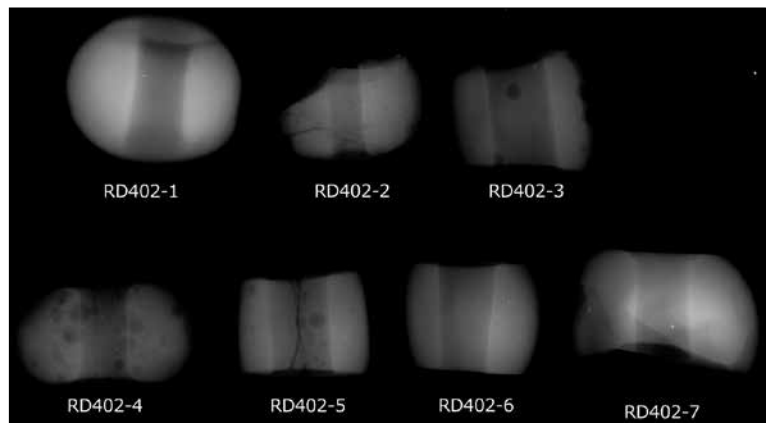


図2 RD402土 墳墓出土ガラス小玉のCR画像



RD403-2 RD403-3 RD403-10
図3 RD403土 墳墓出土ガラス小玉の顕微鏡写真（一部）（倍率不同）

4-2 基礎ガラスの種類と着色剤

蛍光X線分析によって得られた化学組成から、遺構ごとにガラス小玉の基礎ガラスの種類と着色剤について検討する。蛍光X線分析の結果は表1に示した。

RD402土壌墓 7点のガラス小玉のうち4点(RD402-1, 2, 3, 5)については、 K_2O を14.8-20.4%含有するカリガラスであった。筆者らは日本列島で出土するカリガラスを CaO と Al_2O_3 の含有量から二種類に分類しているが、RD402-1以外の3点は、 Al_2O_3 含有量が相対的に少なく、 CaO 含有量が多いタイプのカリガラス(Group PI) (Oga and Tamura 2013)に相当する(図4)。一方、RD402-1は、 Al_2O_3 が少なく CaO が多い傾向は他の3点と共通するものの、 CaO の値が2.8%と特に高く、一般的なGroup PIの領域からは外れている。既存のグループには属さない可能性があるため、カリガラスの細分の帰属判断は保留した。着色に關与する成分としては、紺色透明を呈するRD402-2, 3, 5の3点は CoO を0.06-0.07%含有しており、コバルトイオンが主要な着色成分である。コバルト原料の不純物と考えられる MnO を1.28-1.55%含有する一方で、 CuO および PbO の含有量がきわめて少ない(0.1%未満)という、これまでに知られているGroup PIのカリガラスの典型的な着色剤の特徴を有する。一方、わずかに紺色味を帯びた濃青色を呈するRD402-1は、 MnO と CuO をそれぞれ1.87%と1.80%含有しており、これらの元素によって濃青色を呈すると考えられる。 CoO の定量値は0.01%と極めて少ないが、色調を考慮すると、きわめてわずかのコバルトイオンが紺色味を与えている可能性がある。

一方、RD402-4, 6, 7の3点は、 Na_2O を13.3-15.7%含有するソーダガラスであった。これらについては、 MgO , K_2O , CaO , Al_2O_3 の含有量から、既存のグループ(Group SI~SV) (Oga and Tamura 2013)への帰属を検討した(図5)。その結果、RD402-4とRD402-6は、 Al_2O_3 が4.8-5.2%と比較的多く、 CaO が2.0%と少ないことから、高アルミナタイプのソーダガラス(Group SII)に相当すると判断された。Group SIIは、日本列島での流通時期と着色剤からGroup SIIAとGroup SIIBに細分される。本資料は、着色剤の特徴などからGroup SIIBに相当する。着色に關与

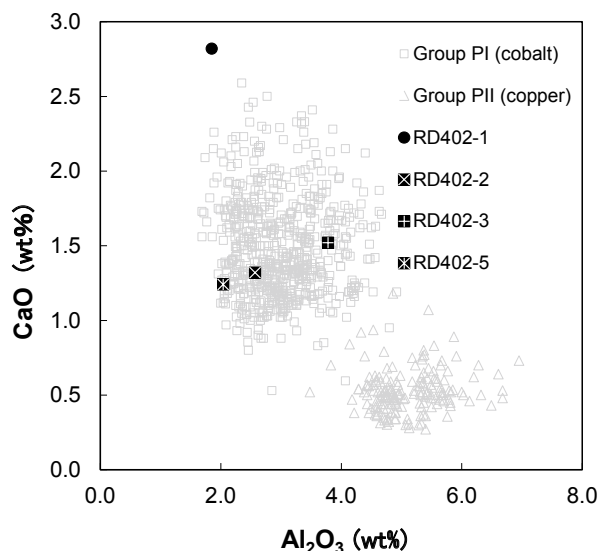


図4 カリガラスの細分 (Al_2O_3 vs. CaO)

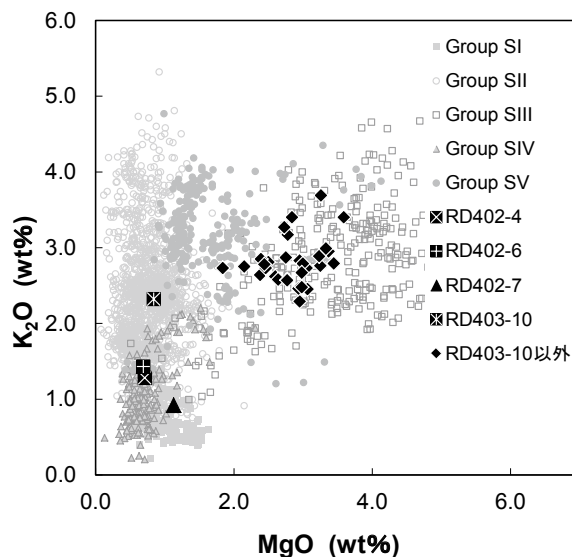
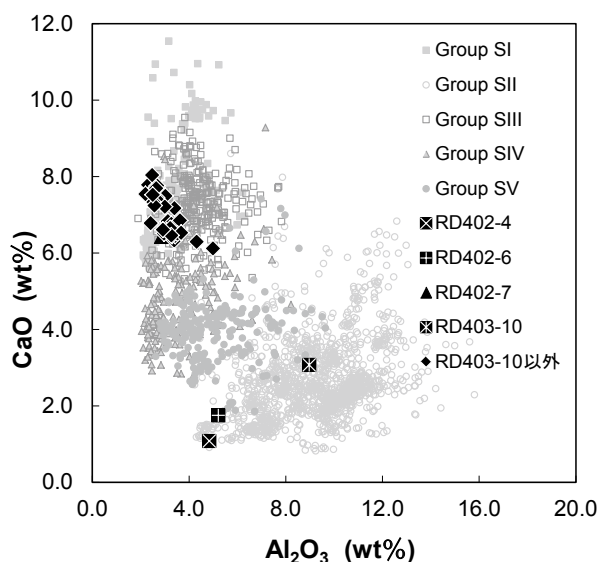


図5 ソーダガラスの細分
(上: Al_2O_3 vs. CaO , 下: MgO vs. K_2O)

する成分として、RD402-4はMnOを0.57%、CuOを0.64%含有しており、これらの成分により濃青色を呈すると推定される。銅原料の不純物と考えられるPbOおよびSnO₂はほとんど含まれない。一方、RD402-6の色調（青色透明）はRD402-4と比較的類似するものの、MnOの含有量は0.07%と極めて少なく、PbOとSnO₂をそれぞれ0.28%と0.27%含有する。すなわち、RD402-4とRD402-6では着色剤として利用された銅原料が異なると判断される。

RD402-7は、Al₂O₃が2.9%と少なくCaOが6.4%と多い、低Al₂O₃高CaOのソーダガラスである。さらに、MgOおよびK₂Oの含有量がいずれも1.5%以下であることから、ソーダガラスの中でもナトロンとよばれる蒸発塩をソーダ原料としたナトロンガラスである。重要な特徴として、Sb₂O₃を1.37%含む。アンチモン(Sb)はガラスの消色剤として知られており、意図的に添加されたと考えられる¹⁾。さらに、MnOを0.38%含有する点も分類上注目される。筆者らによる日本列島出土のナトロンガラスを細分に基つくと、本資料はGroup SI Type A2 (Tamura and Oga 2016)に相当する。Group SI Type A2は、Sb₂O₃を多量(2%前後)に含むと同時にMnOを少量(0.45%前後)含むことが特徴である²⁾。着色に関与する成分として、CoOを0.05%含むと同時に、コバルト原料に付随する不純物と推定される成分として、CuOを0.23%、PbOを0.11%含有する。このような着色剤の特徴は、日本列島出土のナトロンガラスに共通する特徴である³⁾(Oga and Tamura 2013, 大賀・田村2015, Tamura and Oga 2016)。

RD403土壌墓 蛍光X線分析の結果、すべてNa₂Oを10.5-17.0%含有するソーダガラスであった。色調の異なるRD403-10のみ、高アルミナタイプのソーダガラス(Group SIIIB)であった。濃青色透明を呈する本資料の着色に関与する成分として、CuOを0.70%含有しており、銅イオンが青色の主要な着色要因であるが、MnOをわずかに含有している(0.17%)ことがやや暗めの色調と関係していると考えている。PbOとSnO₂は極めて少なく、着色剤としての銅原料の特徴を示唆している。

上記以外の30点は、植物灰タイプのソーダガラス(Group SIIIA)に相当する。Group SIIIAは、低Al₂O₃高CaOのソーダガラスのうち、MgOとK₂Oの含有量が1.5%よりも多いもので、ソーダ原料に植物灰を利用したと考えられているガラスである。Group SIIIAのガラス小玉については、製作技法と化学組成からGroup SIIIA・SIIIB・SIIICに細分される。RD403土壌墓出土品は、引き伸ばし法で製作された紺色ガラス小玉であることと、MgOおよびK₂Oの含有量が比較的少ない領域でばらつくという化学組成の特徴(図5)から、Group SIIIBに相当すると判断される。着色に関与する成分としては、CoOが0.06-0.18%含まれており、コバルトイオンが主要な着色要因である。コバルト原料の不純物と考えられる微量のCuOとPbOが検出されている一方でMnOはGroup PIなどに比べて少ない(<0.5%)。このような特徴をもつコバルト原料はこれまでに知られているGroup SIIIBのガラス小玉にも共通して用いられている。

4-3 時期的な検討

薬師社脇遺跡のガラス小玉について、遺構ごとに特徴を整理し、筆者らがこれまで分析を実施してきた畿内を中心とした古墳文化のガラス小玉と比較してみたい。まず、RD402土壌墓から出土したコバルト着色のGroup PIのカリガラス小玉(RD402-2, 3, 5)は、日本列島では弥生時代から流通するが、本遺構出土品のような直径が6mmを超えるような大型で端面が顕著に磨かれて臼状を呈するものは、古墳時代中期前半の特徴であることが指摘されている(石橋ほか2016)。Group SIIIBの濃青色のガラス小玉(RD402-4)については古墳時代中期中葉に流通が開始する。基礎ガラスの種類が共通するRD402-4についても製作技法や着色剤の特徴は異なるが、流入時期に大きな差異はないと考えられる。Group SI (Type A2)のナトロンガラス小玉(RD402-7)については、類例が極めて少ないものの、大阪府風吹山古墳で3点の出土を確認している(Tamura and Oga 2016)。流入時期は中期前半にほぼ限定されると考えている。RD402-1に

については、製作技法や化学組成の特徴が特殊であったため、現在のところ確実な類例は確認されないが、日本列島におけるカリガラス全体の流通量は古墳時代中期後半以降急激に低下することから、古墳時代中期前半までに流入したと考えるのが妥当であろう。

一方、RD403土壙墓の主体を占めるコバルト着色の植物灰タイプのソーダガラス製小玉（Group SIIIB）は、古墳時代中期後半に出現することが明らかとなっている。Group SIIIBの有無がRD402土壙墓とRD403土壙墓との最大の相違である。遺構の時期差を直接的に示唆するかどうかは慎重に検討しなければならないが、ガラス小玉の構成に関してのみ言えば、RD402土壙墓よりもRD403土壙墓がやや新しい様相を有していると言える。いずれにせよ、ガラス小玉の種類から見ても、古墳時代中期後半とされているこれらの土壙墓の時期と矛盾はなく、古墳時代中期中葉から後半にかけての日本列島で流通した典型的なガラス小玉であると言える。

5 結語

本調査において、薬師社脇遺跡のRD402土壙墓およびRD403土壙墓から出土したガラス小玉の製作技法や基礎ガラスの種類、着色剤の特徴が明らかとなった。その結果、いずれも古墳時代中期中葉～後半に典型的なガラス小玉であり、畿内を中心とした東北南部以南の古墳文化との関係からもたらされた遺物であることが示された。古墳時代中期の東北地方における物流の一端を解明する貴重なデータを提示できたと考えている。

【註】

1) 地中海周辺地域で出土するナトロンガラスには、アンチモン（Sb）を消色剤として用いた無色ガラスが多数存在する。ただし、本資料に関しては、紺色に強く着色されているため、消色剤としての効果は失われている。アンチモンで消色された無色ガラスを後で着色した可能性も考えられる。一方、アンチモンは消色効果の他にガラスの脱泡（清澄）を促進する効果もあるため、清澄剤として使用されていた可能性も否定できない。本資料を含め、アンチモンを多く含むナトロンガラスは極めて気泡が少ない。

2) ナトロンガラスに含まれるMnOについては、CuOやPbOとの相関関係が認められないことから、着色剤の不純物ではなく、ケイ砂の不純物もしくはアンチモンと同じく消色剤として添加された成分であると理解している。

3) 一部のものについては、イラン産の鉛鉱石と類似の鉛同位体比を持つ（Tamura and Oga 2016）。

【参考文献】

石橋宏・大賀克彦・西川修一2016「つくば市免野井古墳群の再検討」『東生』第5号，129-158頁。

大賀克彦2002「日本列島におけるガラス小玉の変遷」『小羽山古墳群』, (『清水町埋蔵文化財発掘調査報告書』V), 127-145頁。

大賀克彦・田村朋美2015「古墳時代前期のナトロンガラス」『古代学』第7号，1-11頁。

肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦2010「材質とその歴史的変遷」『月刊文化財』No. 566，13-25頁。

Oga, K., Tamura, T. 2013. Ancient Japan and the Indian Ocean Interaction Sphere: Chemical Compositions, Chronologies, Provenances and Trade Routes of Imported Glass Beads in Yayoi-Kofun Period (3rd Century BCE-7th Century CE). *Journal of Indian Ocean Archaeology*, 9.

Tamura, T., Oga, K. 2016. Archaeometrical investigation of natron glass excavated in Japan, *Microchemical Journal* vol.126, pp.7-17.

表1 蛍光X線分析結果

分析番号	製作技法	基礎ガラス		着色要因	色調	重量濃度 (wt%)																				
		大別	細別			Group*	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	K ₂ O	CaO	TiO ₂	Cr ₂ O ₃	MnO	Fe ₂ O ₃	CoO	Ni ₂ O ₃	CuO	ZnO	PbO	Rb ₂ O	SrO	ZrO ₂	その他
RD402-1	包み巻き?	カリ		Group P	銅+マンガン (+コバルト?)	濃青色透明 (やや紺色味)	0.7	0.3	1.9	69.2	0.3	20.4	2.8	0.07	0.01	1.87	0.33	0.01	1.80	0.02	0.02	0.02	0.01	0.12	BaO: 0.14	
RD402-2	引き伸ばし	カリ	中アルミナ	Group PI	コバルト	紺色透明	0.0	0.7	2.6	77.0	0.1	15.4	1.3	0.08	0.03	1.51	1.01	0.07	0.00	0.03	0.01	0.00	0.02	0.02	0.00	BaO: 0.09
RD402-3	引き伸ばし	カリ	中アルミナ	Group PI	コバルト	紺色透明	0.7	0.7	3.8	74.2	0.1	15.8	1.5	0.13	0.01	1.28	1.35	0.06	0.01	0.03	0.02	0.04	0.03	0.03	0.06	BaO: 0.09
RD402-4	引き伸ばし	ソーダ	高アルミナ	Group SIIIB	銅+マンガン	濃青色透明	13.3	0.7	4.8	76.5	0.0	1.3	1.1	0.23	0.01	0.57	0.62	0.01	0.00	0.64	0.00	0.04	0.02	0.03	0.11	
RD402-5	引き伸ばし	カリ	中アルミナ	Group PI	コバルト	紺色透明	0.3	0.3	2.0	78.2	0.1	14.8	1.2	0.12	0.02	1.55	0.92	0.06	0.01	0.04	0.02	0.02	0.02	0.03	0.06	BaO: 0.10
RD402-6	包み巻き?	ソーダ	高アルミナ	Group SIIIB	銅	青色透明	15.7	0.7	5.2	70.0	0.2	1.4	1.8	0.50	0.01	0.07	1.06	0.02	0.01	2.63	0.02	0.28	0.01	0.04	0.12	SrO: 0.27
RD402-7	包み巻き	ソーダ	ナトロン	Group SI (Type A2)***	コバルト	紺色透明	15.7	1.1	2.9	69.1	0.2	0.9	6.4	0.12	0.01	0.38	1.14	0.05	0.00	0.23	0.02	0.11	0.01	0.05	0.09	SrO: 1.37
RD403-1	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	16.2	3.3	5.0	64.5	0.2	2.8	6.1	0.17	0.01	0.23	1.18	0.06	0.01	0.08	0.01	0.02	0.01	0.05	0.11	
RD403-2	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	16.2	2.2	3.0	65.6	0.2	2.8	7.5	0.09	0.01	0.12	1.59	0.18	0.01	0.24	0.02	0.13	0.01	0.05	0.09	
RD403-3	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	15.2	3.0	3.4	66.8	0.2	2.3	7.2	0.12	0.01	0.28	1.14	0.07	0.00	0.09	0.01	0.05	0.01	0.03	0.14	
RD403-4	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	14.3	3.0	3.4	67.9	0.2	2.8	6.3	0.10	0.01	0.07	1.30	0.10	0.01	0.18	0.01	0.12	0.02	0.05	0.09	
RD403-5	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	16.7	2.6	2.7	65.8	0.3	2.6	7.5	0.07	0.01	0.08	1.11	0.12	0.01	0.21	0.01	0.09	0.01	0.04	0.10	
RD403-6	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	15.7	2.6	3.1	67.0	0.2	2.6	6.8	0.12	0.01	0.28	1.14	0.07	0.01	0.09	0.01	0.07	0.02	0.05	0.04	
RD403-7	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	15.1	3.6	3.4	65.5	0.3	3.4	6.5	0.22	0.02	0.10	1.37	0.09	0.01	0.18	0.01	0.15	0.02	0.05	0.07	
RD403-8	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	11.1	2.8	3.3	71.2	0.2	2.9	6.8	0.05	0.01	0.06	1.21	0.12	0.01	0.16	0.01	0.11	0.01	0.03	0.10	
RD403-9	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	17.5	2.9	2.7	65.0	0.3	2.5	7.4	0.09	0.01	0.08	1.13	0.11	0.01	0.19	0.02	0.09	0.01	0.04	0.00	
RD403-10	引き伸ばし	ソーダ	高アルミナ	Group SIIIB	銅+マンガン	濃青色透明	14.6	0.8	9.0	66.9	0.2	2.3	3.1	0.50	0.00	0.17	1.55	0.03	0.00	0.70	0.01	0.05	0.00	0.01	0.14	
RD403-11	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	16.0	3.1	3.0	66.1	0.2	2.5	7.2	0.10	0.01	0.11	1.25	0.13	0.01	0.21	0.01	0.11	0.01	0.04	0.00	
RD403-12	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	16.1	3.1	2.3	65.9	0.3	2.7	7.8	0.07	0.01	0.08	1.13	0.11	0.00	0.21	0.01	0.12	0.02	0.03	0.06	
RD403-13	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	17.0	3.2	3.0	65.3	0.2	2.9	6.5	0.09	0.01	0.07	1.11	0.09	0.01	0.22	0.02	0.16	0.01	0.03	0.06	
RD403-14	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	14.9	2.8	2.7	66.4	0.3	3.4	7.8	0.11	0.01	0.07	1.11	0.10	0.01	0.17	0.01	0.11	0.01	0.03	0.08	
RD403-15	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	14.8	1.8	2.5	67.9	0.2	2.7	8.0	0.1	0.0	0.12	1.34	0.14	0.01	0.17	0.01	0.11	0.01	0.03	0.00	
RD403-16	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	13.2	3.4	3.3	68.3	0.2	3.0	6.5	0.2	0.0	0.25	1.34	0.09	0.01	0.08	0.01	0.04	0.01	0.04	0.07	
RD403-17	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	14.7	3.0	4.3	66.7	0.1	2.8	6.3	0.2	0.0	0.25	1.27	0.06	0.00	0.09	0.01	0.05	0.01	0.04	0.07	
RD403-18	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	14.8	2.4	2.5	67.5	0.2	2.6	7.6	0.1	0.0	0.09	1.52	0.16	0.01	0.22	0.01	0.13	0.01	0.05	0.10	
RD403-19	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	14.3	3.3	3.6	66.0	0.3	3.7	6.9	0.1	0.0	0.07	1.24	0.09	0.01	0.16	0.01	0.13	0.00	0.06	0.07	
RD403-20	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	10.6	2.8	3.5	70.9	0.3	3.2	6.5	0.2	0.0	0.28	1.37	0.10	0.00	0.12	0.01	0.09	0.02	0.04	0.08	
RD403-21	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	15.9	3.0	2.5	66.8	0.2	2.5	7.3	0.1	0.0	0.09	1.03	0.11	0.01	0.17	0.01	0.09	0.01	0.04	0.05	
RD403-22	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	13.5	2.5	3.1	69.4	0.3	2.8	6.6	0.1	0.0	0.31	1.06	0.08	0.01	0.09	0.01	0.04	0.01	0.04	0.08	
RD403-23	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	15.3	2.4	2.6	67.2	0.3	2.9	7.2	0.1	0.0	0.11	1.27	0.13	0.00	0.20	0.01	0.12	0.01	0.06	0.17	
RD403-24	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	15.5	2.5	2.4	68.0	0.2	2.7	6.8	0.1	0.0	0.09	1.16	0.12	0.01	0.18	0.01	0.12	0.01	0.03	0.08	
RD403-25	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	13.4	3.3	3.2	68.3	0.2	3.0	6.7	0.2	0.0	0.14	1.27	0.08	0.01	0.10	0.01	0.06	0.01	0.05	0.04	
RD403-26	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	10.5	2.7	3.7	70.8	0.3	3.3	6.5	0.2	0.0	0.28	1.36	0.08	0.00	0.11	0.02	0.10	0.02	0.06	0.04	
RD403-27	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	15.2	3.0	2.2	67.4	0.3	2.7	7.5	0.1	0.0	0.09	1.04	0.10	0.01	0.21	0.01	0.09	0.01	0.05	0.10	
RD403-28	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	15.1	3.4	3.3	66.8	0.3	2.8	6.5	0.1	0.0	0.24	1.15	0.07	0.01	0.10	0.02	0.05	0.02	0.03	0.09	
RD403-29	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	15.5	2.8	2.6	66.5	0.2	2.6	7.7	0.1	0.0	0.11	1.28	0.12	0.01	0.18	0.01	0.11	0.03	0.05	0.14	
RD403-30	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	13.7	2.4	2.5	68.8	0.2	2.8	7.5	0.1	0.0	0.09	1.30	0.12	0.00	0.23	0.01	0.14	0.01	0.04	0.07	
RD403-31	引き伸ばし	ソーダ	植物灰	Group SIIIB	コバルト	紺色透明	14.7	2.8	2.9	68.2	0.3	2.6	6.6	0.1	0.0	0.27	1.12	0.07	0.01	0.09	0.01	0.06	0.01	0.03	0.08	

*Oga and Tamura 2013による

***Tamura and Oga 2016による

報告書抄録

ふりがな	もりおかしいせきのまなびかん へいせい27ねんど かんぼう							
書名	盛岡市遺跡の学び館 平成27年度 館報							
編集者名	北田 牧子・菊地 幸裕・室野 秀文・津嶋 知弘・神原 雄一郎・花井 正香・佐々木 亮二・鈴木 俊輝							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1 電話 019-635-6600							
発行年月日	2017年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もりおかじょうあと 盛岡城跡 (第35次)	いわてけん もりおかしうちまる 岩手県盛岡市内丸 57-1 地内	03201	LE16-0355	39° 43' 39"	141° 09' 00"	20150908 ～ 1105	41	保存整備事業に 伴う事前調査
あかほろ 赤裳遺跡 (第4次)	いわてけん もりおかしにしあお 岩手県盛岡市西青 山一丁目21, 16-2		LE05-0397	39° 43' 20"	141° 06' 26"	20150511 ～ 0630	510	個人住宅建築
ほそやち 細谷地遺跡 (第35次)	いわてけん もりおかしむかいなか 岩手県盛岡市向中 のあさほそやち 野字細谷地7-2 外		LE26-0214	39° 40' 29"	141° 08' 30"	20150512 ～ 1225	7,842	土地区画整理事業
てしろもり 手代森遺跡 (第5次)	いわてけん もりおかし てしろ 岩手県盛岡市手代 もりちわり 森22地割62-6 外		LE37-1236	39° 38' 24"	141° 11' 15"	20151214 ～ 1218	108	水道管敷設工事
もりおかじょうとおくるわあと 盛岡城遠曲輪跡	いわてけん もりおかし しんめい 岩手県盛岡市神明 ちょういちぶ 町18の一部		LE06-2389	39° 42' 14"	141° 09' 08"	20150616	36	共同住宅建築
だいたろう 台太郎遺跡 (第85次)	いわてけん もりおかしむかいなか 岩手県盛岡市向中 のちようめ 野一丁目12-4		LE16-2269	39° 40' 53"	141° 08' 18"	20150715	71	宅地造成
しもながぼやし 下永林遺跡 (第2次)	いわてけん もりおかし さんぼん 岩手県盛岡市三本 やなぎちわり 柳10地割24-3 外		LE27-2054	39° 39' 16"	141° 09' 43"	20160126	50	土地区画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
盛岡城跡 (第35次)	城館跡	近世	門跡2棟, 坂道1ヶ所, 堀跡1条		瓦, 陶磁器, 古銭		江戸中期の絵図に描かれた坂道や築城初期の堀跡等を確認	
赤裳遺跡 (第4次)	散布地	平安	竪穴建物跡1棟, 土器焼成遺構2基, 土坑3基, 粘土採掘坑4基		平安時代後期の土器 コンテナ20箱		県内では類例に乏しい11世紀代の土器焼成遺構を確認	
細谷地遺跡 (第35次)	集落跡	縄文 平安	陥し穴状土坑3基 竪穴建物跡6棟, 竪穴状遺構1基, 溝跡5条, 土坑15基		縄文土器片 土師器・須恵器・あかや き土器 コンテナ5箱			
手代森遺跡 (第5次)	集落跡	縄文	遺物包含層		縄文時代の土器・石器 コンテナ2箱			
盛岡城遠曲輪跡	城館跡	近世	排水溝跡1条		陶磁器			
台太郎遺跡 (第85次)	集落跡	平安	土坑1基		土師器・須恵器片			
下永林遺跡 (第2次)	散布地		溝跡1条					

盛岡市遺跡の学び館 平成 27 年度 館報

平成29年 3月25日 発行

発行 盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1
電話 019-635-6600 FAX 019-635-6605
e-mail iseki@city.morioka.iwate.jp
URL [http://www.city.morioka.iwate.jp/moriokagaido/
rekishi/manabikan/index.html](http://www.city.morioka.iwate.jp/moriokagaido/rekishi/manabikan/index.html)

印刷 永代印刷㈱
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡一丁目 8-30
電話 019-636-0011



盛岡市 **遺跡の学び館**